

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員間で、ユニット会議、全体会議等を通し、「自宅に在るような生活」を支援することの大切さ理念の共有を行っている。	「笑顔」「穏やかに」という主旨の法人理念を基に「自宅に在るような生活」を柱とし支援に当たっている。利用者や家族には利用開始時や入居申し込み時に説明している。職員会議やユニット会議で理念や「明るく、楽しく、元気よく」というスローガンを確認し実践している。また、職員に理念にそぐわない行動が見られたときにはその場で注意したり、ユニット会議で全職員に事例として伝え再発防止を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地元「吉田横町区」に加入し、地域で行われている行事(餅つき大会、どんど焼き)に入居者と共に参加している。 ・地域で行われている新年会等の行事へも参加している。	法人として区費を納め、また、地元の商店会にも加入し一員として活動している。地域の行事などの情報は運営推進委員会のメンバーや商店会の会員から得て積極的に参加している。開設後の初めての地元区新年会には法人理事長や総合施設長、管理者の3名が出席し交流している。今年度は新型コロナウイルス禍ということもあり、地域の人々の参加を頂く予定であったホームの夏祭り、地元の神楽の来訪なども自粛せざるを得なくなっている。また、中学生の福祉体験や短大生の実習の受け入れも予定し関係者に働きかけていたが中止となっている。同じ法人が運営するケアホームで行われる地域包括支援センター主催の「オレンジカフェ」に利用者と職員が参加し共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域で行われている「オレンジカフェ」の参加を通し、地域住民を対象に認知症の理解や接し方等について啓発活動を行っている。また、今後、人材育成の貢献の為、実習生の受け入れを積極的に行う予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で取り上げられたことや勘案事項について、一つ一つ積み上げるように努めている。	基本的には2ヶ月に1回、家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当職員、ホーム職員が参加している。会議では利用状況や活動の報告、ヒヤリハット・事故報告などを行い、意見交換をしている。今年度は新型コロナウイルス禍ということもあり、運営推進委員には書面で報告を行い、意見などをFAX等でホーム宛に送信いただき、職員会議でもその内容を伝え運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村担当者と運営推進会議や認定更新の機会等で入居者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携を深めている。	必要に応じて市の担当部署と連携しており、電話で問い合わせなどを行っている。昨年10月の水害直後、地域包括支援センターが招集した緊急会議にも法人として出席し被災した高齢者等の受け入れにも関わりを持った。また、「オレンジカフェ」での活動を通じて認知症やグループホームについて理解を深める啓蒙活動にも携わっている。介護認定更新時の申請代行も行っており、調査時には調査員がホームに来訪し職員が対応している。	

グループホームよしだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・高齢者の権利擁護や身体拘束防止などの研修会を実施し、職員間での意識統一を図っている。 ・入居者が外出を希望されることがあったら、さりげなく声をかける等の事を行っている。	法人内で「身体拘束・虐待防止」「倫理研修」などの必須研修が年2回実施されており職員は参加し、ホーム内でもユニット会議等で随時話し合い人権意識を高めている。玄関は施錠せず、ユニットのリビングからはベランダにはいつでも出られるようになっていいる。外出傾向のある利用者についてはホーム周りや近くの公園へ職員がつき添い散歩し、気分転換を図っている。転落・転倒のリスクがある場合には家族とも相談し、承諾を得た上でセンサーや低床ベッドを使用し、見守りを強化しつつ事故防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束虐待防止の研修会を実施し、虐待となる事例の把握や虐待防止の遵守の徹底を行っている。 ・朝礼やユニット会議等でケアの内容を点検し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度や権利擁護等の研修会を実施し、職員の理解を深めるよう努めている。 ・成年後見人がついているケースがある為、担当している成年後見人と連携してケアにあたっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に時間を十分にとり丁寧説明を行っている。特に入居費用やリスク、退居に関することについては、重点的に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族には、訪問時やお手紙等で常に問いかけ、何でも言って頂けるような雰囲気づくりを行っている。	大半の利用者が自分の意見や思いを表出でき、日常会話の中から希望を汲み取り、表出できない方は生活歴や家族からの情報、表情、仕草などから思いを汲み取るようにしている。現在、家族との面会は自粛しているが、コロナウイルス禍前には毎日来訪する家族、2～3日に1回面会に来られる方もおり、その時に情報交換し、意見・要望をお聞きしていた。遠方の家族にも契約時に少なくとも年2回以上は利用者に会いに来ていただくようお願いしており、また、気になることがあった時や状態に変化があった時などは随時電話などで連絡を取り合っている。毎月、担当職員手書きの近況報告を便りとして家族に郵送し、利用者の様子が分かるようにしている。	・毎月、担当職員手書きの近況報告を便りとして家族に郵送し、利用者の様子が分かるようにしているが、個人情報の保護に配慮しながら、一人ひとりの利用者の活動のビジュアルな写真などを加え、より詳しく伝えられるようにされていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議や全体会議を月1回それぞれのユニットで行い、意見を聞くようにしている。また、日々の業務の中でコミュニケーションを図るよう心がけ、意見を引き出すようにしている。	毎月職員全体会議とユニット会議が開催され、業務に関する検討や利用者カンファレンス、意見交換、研修などを行っている。職員会議で出た意見は必要に応じて法人幹部会議に上げられ、フィードバックするようにしている。開設時から3ヶ月後、また、その後は年2回を目安に管理者が職員の年間目標を基に個別に面談し、お互いに話し合う中で職員のモチベーションアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の資格取得に向けた支援を行い。取得後は、本人の意向を重視しながら職場内で生かせるように努めている。 ・職員の面接を適宜行い、向上心を持って業務にあたることができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月1回行う全体会議内で必要な研修を実施し、技術の向上を行うよう努めている。 ・法人内に研修室を設け、法人内外で行う研修の充実を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・関連の事業所等と研修会や交流を持つことにより、サービスの向上を目指すよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接において、ご本人の生活状態並びに生活歴を把握することに努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようとするよう努めている。 ・サービス利用について相談があったときは、直接ご本人に会って心身の状態やご本人の思いを伺い、ご本人に受け入れて頂くよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面接や入居申込時の相談において、ご家族から今までの経緯と今後の希望を伺い、事業所としての対応や今後の方向などについて話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時には、ご本人やご家族の状況並びに希望を伺い、信頼関係を築きながら、必要なサービス利用につなげるよう努めている。 ・早急な対応が必要な場合は、ケアマネジャーや関係機関と連携し、必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の思いや根本にある不安、慶びなどを知ることにより、生活の中で共感し、お互いが協働しながら暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月、ご家族宛にご本人の様子を手紙にてお伝えすることにより、ご家族とのつながりが切れないよう留意している。 ・ご家族来所時には、ご本人の様子をごまめに伝え、ご家族から協力を得やすいよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・昔から利用している美容院に行き続けている入居者やご家族と共に食事や自宅に出かけたりする等、一人一人の生活習慣を尊重している。	現在は新型コロナウイルス禍で自粛しているが、囲碁仲間が訪れたり、地元のどんど焼きに参加した際に馴染みの方とコミュニケーションをとったり、馴染みの美容院へ行く利用者もいる。家族来訪の際に馴染みの食事処で共に昼食を摂りホームに戻る方もいる。更に、利用者の意向に沿い、ドライブを兼ね空き家となった自宅へ出向いたり、お盆や年末年始などに一時帰宅や外泊をされる利用者もあり、馴染みの関係が継続できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の関係性や心身の状態や気分等を注意深く観察し、それらを職員間で連携している。 ・職員は、入居者同士がうまくゆくよう、調整役を務めるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居した入居者や家族であっても、必要に応じて相談や関係機関と連携を行い、フォローアップできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、声をかけたり、話を伺った中から、ご本人の意向等を把握している。意思疎通が困難な方には、ご家族等からうかがうようにしている。 ・ご本人にとって最良の暮らし方について、ご本人、ご家族等と検討している。	家族やホーム利用前の担当ケアマネジャーから情報を得たり、生活歴を踏まえた上で利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取るようにしている。また、入居後、利用者のつぶやき等から更に新たな情報を把握し、カンファレンスで検討を加え、それを基に意識して利用者コミュニケーションをとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の面接時等でご本人の生活歴を伺うことにより、入居前の生活について把握を行っている、また、入居後も折を見てご家族等から継続して伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者一人一人の生活リズムを感じ取り、日常の小さな行動やしぐさを感じ取り、ご本人の全体像を把握している。 ・できないことよりもできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の関わりの中から、ご本人やご家族、職員の思いを聞き取り、介護計画に反映させている。 ・アセスメントを含め、各種会議内で情報収集や意見交換を行っている。	担当制をとっており、職員は1~2名の利用者を担当している。利用者にとって一番身近な存在として散歩や買い物と一緒に掛付け信頼関係を築いている。ホームではIT化が進んでおり、ケアチェックについてもデータ化され、それらと担当職員からの情報を基にモニタリングを実施している。介護計画の長期目標は1年、短期目標は6ヶ月で設定し、状態に変化ある時には随時見直しをしている。各ユニットの計画作成担当者は利用者・家族の希望や担当職員からの情報、モニタリング結果等を基に介護計画を作成している。	

グループホームよしだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・電子カルテを採用し、全ての記録をデータベースにて管理を行っている。 ・職員の気づきや状態変化については、ケア記録に記載し情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人の状況やご家族の希望に応じて、外出行事などを行い、柔軟にサービスを行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地元自治会が開催している行事に参加し、地域とのつながりを大切にしてケアを行っている。 ・ご家族だけでなく、元々住んでいた所の知人とのつながりを保つことができるよう努めている。 ・ご本人の体調を見ながら、訪問美容やボランティアとの交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・当ホームの協力医の他、地域の医師の診療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行っている。また、ご本人・ご家族の希望により、必要な医療機関を受診できるよう努めている。	利用者や家族の希望に沿ってかかりつけ医の継続や協力医への切り替えを行っている。協力医の往診が各ユニット月1回あることから協力医へ切り替えをする方が多い。内科以外の専門科目については入居前からの医療機関を継続する方がほとんどで受診については家族が対応し、歯科については歩いて数分の場所に協力歯科医院があり職員が付き添っている。また、ホームには非常勤の看護師がおり、夜間帯等にも24時間のオンコールが可能となっている。職員が受診に付き添う場合には管理者や看護師から受診結果を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員を配置しており、入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行うようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院目的の受診については、可能な限り職員が付き添いを行い、相手の医療機関への情報提供を行い、入院中の治療方針を伺うようにしている。 ・医療機関に設置されている地域医療連携室等と連携を取り、スムーズに退院し、ホームでの生活ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、ホームが行うケアについての説明を行い、同意を得ている。 ・看取りについても「看取りに関する指針」を作成し、ホームが行う看取りの方針の説明を行い、同意を得ている。また、看取り時には、ご本人並びにご家族の意思を確認しながらケアを行っている。	利用契約時にホームの指針を基に家族へ説明し、ホームとして「できること・できないこと」を明確にし、万が一の場合に救急搬送等を望むかどうかの意向も把握している。開設以来、一人の方の看取りを行い、家族、医師、看護師、ホーム職員で連携し、ケアに当たった。また、急変時に備え、職員間での情報の共有化も図り備えたという。看取りの際にはこれから起こり得ることや連携の取り方などの講習会も実施し、職員の不安の軽減に努めている。	

グループホームよしだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員全員が参加する応急救護の研修会を年1回程度実施し、習得するようにしている。また、夜勤時等の緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災計画を作成し、年2回の訓練を実施している。可能な範囲で入居者に参加していただいている。	ホームとしての防災計画があり、基本的に年2回、防災訓練を実施するようになっている。本年、10月末には夜間の火災想定で訓練を予定しており、特に2階ユニットの利用者は非常階段を使い避難するようになっている。避難訓練後には皆で課題や疑問を出し合い、話し合いをする予定となっている。法人本部ともいべきケアホームが同じ地区にあり地域の福祉避難所となっており、当ホームでも高齢の被災者の受け入れの要請については対応が可能となっている。水や食料品、排泄用品などの備蓄もあり、緊急連絡網等も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者の情報収集や外部との連携の際は、個人情報保護について十分に理解しながら、取り扱いを行っている。 ・ご本人の気持ちや要望に沿いながら、自己決定できるよう言葉かけを行っている。	ホーム開設に当たり、倫理研修としてプライバシー保護や権利擁護の研修を実施しており、その後の職員研修や朝礼・全体会議・ユニット会議での声掛けを通して、職員の人権意識を高めている。日常業務の中で気になることがある時は管理者が面談し指導している。また、入浴時や排泄時の介助も同性での介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・できる限り複数の選択肢を出し、選んでいただけるよう心がけている。 ・一人一人の状況に合わせて言葉かけや働きかけを行っている。理解が難しい人には、複数回伺うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・大まかな日課は決めているものの、一人一人の体調や気分に合わせてながら、1日を過ごしていただくようにしている。 ・ご本人のご希望を伺いながら、時折、外出したりする等の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・可能な限り、朝と夕方に着替えをしていただき、ご本人にあった身だしなみとなるようにしている。 ・ご本人の希望に合わせ、美容院等による出張美容等を行い、その人らしさを保つことができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事のメニューは、気候や入居者の体調、入居者の希望を伺いながら決めている。また、職員と入居者が同じテーブルを囲んで食事をするにより、楽しく食事ができるようにしている。	ほとんどの利用者が自力で摂取できるが、一部介助の方、全介助の方も若干名いる。食事形態もほとんどの方が常食で、数人の方は刻みやトロミなどの形態をとっている。基本的に献立はそれぞれのユニットで利用者の要望に沿いながら別々に立てており、職員が交替で調理し提供するようになっている。可能な利用者には食事の下ごしらえや食器ふきなどを一緒に行っていただき、ホームのミニ菜園でミニトマトやナスなどの夏野菜を育て、利用者と共に草取りや収穫を行っている。	

グループホームよしだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の体調を1日の食事摂取量を把握している。また、嗜好品等を活用している。 ・可能な範囲でご本人の好きなものや食べやすいものを提供しよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きなどの口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。 ・近隣の歯科医の診察を受けたり、月1回歯科衛生士の指導を受けることにより、口腔内の清潔保持や口腔内の状態の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自尊心に配慮し、身体機能や精神状態合わせて職員が支援、介護を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ、パット類もご本人に合わせて検討している。	利用者の自立度は高く、ほぼ半数の方が自らトイレで排泄することが出来る。一部介助を必要とする方もいるが、安心のためリハビリパンツとパットを使用する方が多く、職員は一人ひとりの利用者に合わせて、排泄チェック表などを基に細かいアセスメントやカンファレンスを通じて工夫するようにしている。トイレの表示もさりげなく、かつ、分かりやすくなっている。介護用品の値段や使用感についてもスタッフ間で話し合いを重ね、より良い排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排せつ状況を記録し、十分な水分摂取を行って頂くよう努めている。また、腸の働きをよくするため、テレビ体操等積極的に誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・可能な範囲でご本人の希望に合わせて入浴していただいている。また、ご本人の体調や気分に合わせて、入浴日や入浴する時間についても柔軟に対応している。	利用者は、基本的に週2回、午前中に入浴している。洗身や洗髪については自立されている利用者が多く、職員は見守りし安全面への配慮をしている。入浴の拒否がある方がいるが、時間や日にちを替えて入浴できるよう声がけしており、難しい場合には日々の更衣などで配慮している。また、随時、ゆず湯や菖蒲湯等、季節を感じる事が出来る工夫をし、利用者の中には家族と温泉へ行き楽しんでくる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、お一人お一人の体調や気分に合わせてゆっくりとお休み頂くよう努めている。 ・夜間については、入居前の生活リズムを尊重しながら、お休み頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方薬の情報を各自のファイルにつづり、職員が内容の把握ができるようにしている。 ・処方が変更になったり、体調が変化した場合などについては、その都度、職員間で連携を取るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・得意分野やご自宅にいた頃に行っていたことを参考に一人一人の力を発揮して頂くよう、できる事をお願いしている。 ・外出行事等については、入居者と相談しながら、行き先を決めている。		

グループホームよしだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居前のご様子やお一人お一人の習慣に合わせてながら、近所への散歩やドライブなどの外出を行っている。	外に出るときに車いすの方が多くなりつつあるが、天気の良い日にはホーム周辺を散歩したり、近くのお地蔵さんのある場所まで往復している。現状コロナウィルス禍ということで難しいが、ショッピングセンターへのユニット毎での買い物なども企画されている。年間行事計画が立てられ、ドライブを兼ね花見や紅葉狩りなどにユニット毎で出掛けている。また、随時ドライブしながら利用者の自宅を見に行ったり、テラスでのお茶飲み会など、気分転換の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の所持については、安全面を考慮し、持っていたかかないようにしている。ただ、買い物等については、可能な範囲で品物を選んでいただくように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの電話については、適宜とりつきを行っている。家族や友人への連絡については、ご家族の意向を踏まえながら、適宜、行っている。 ・手紙については、入居者の希望を伺いながら、行うように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室については、可能な範囲でご本人のなじみのものを置いて頂くよう配慮を行っている。 ・ホール等については、できるだけ使いやすく、安全に快適に過ごすことができるよう配慮を行っている。	共用部分はエアコンで温度管理され、リビング兼食堂の壁には利用者と職員が制作した折り紙を貼った作品が貼られ、華やかさが感じられた。リビングからは街並みや家並みを見ることが出来、採光も良く明るい。リビング兼食堂に続き、対面式のキッチンが設けられ調理の様子を見ながら職員との会話が楽しめるようになっていた。それぞれのユニットにはトイレが3つずつあり、浴室は洗い場と脱衣室が広く、工夫された造りとなっている。浴室もエアコンが設置されているためヒートショック予防にも対応できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホール内にソファを設置し、入居者同士が話をできる場所となるよう工夫を行っている。 ・デッキには、いすを置き、天気の良い日等にくつろげる場所となるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内については、ご本人並びにご家族の意向を踏まえ、可能な範囲でご本人のなじみのものを置いたり、家具等の配置を調整したりしながら、居心地よい部屋になるよう努めている。	ベッドとクローゼットが備え付けられ、窓からは外を眺めることができ開放感がある。空調はエアコンで管理され、寒さを感じることはない。各居室への持ち込みは自由で、テレビ、使い慣れた引き出し、カラーボックスなどが置かれていたり、人形や写真などが飾られ、生活感を感じることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者の身体状況に合わせて、ホール内などの段差をほとんどなくすとともに配置などを工夫し、可能な限りわかりやすく行うようにしている。		